

—2011年3月11日に起きた東日本大震災をきっかけに、

欧州の一部の国では、原発の賛否をめぐる議論が白熱。脱原発につながりました。

Fukushima は世界で どのように報道されているか

受付開始 17:45~

日時

2023 5.31 wed 18:00~19:30

会場

対面：立教大学 池袋キャンパス 14号館 D501教室
オンライン：Zoomミーティング

参加
無料

通訳
有り

例えば、オーストリアでは、ツヴェンテンドルフ原発が建設されたまま稼働せず、現在では一般に公開されています。「原子力の平和利用」に対して、明らかに反対ムードが漂っていましたが、ロシアとウクライナの戦争によって、こうした考え方にも変化が見られるようになりました。

本シンポジウムでは、2016年と2021年にオーストリアで放映されたブランドナー氏による映像作品（テレビ番組）を紹介しながら、“Fukushimaが世界でどのように報道されているか”について検討します。

さらに、同氏が撮影したFukushimaの映像と、ウィーン在住の日本人アーティスト「Hana USUI」のコラボレーションによるアートプロジェクトも上映いたします。

本シンポジウムを通して、福島の実状と復興支援に対する理解を深めるきっかけにしたいと考えておりますので、ご関心のある方はぜひご参加ください。



Judith Brandner
(ユーディット・ブランドナー)

2023年度 本学海外招聘研究員
ジャーナリスト・ORF オーストリア国営放送局

東日本大震災後、毎年のように福島県での取材を重ねており、現在も Fukushima に暮らす人々の生活に同行し、彼らの人生の物語を語ることに関心を寄せている。
テレビ・ラジオ番組：Fukushima - die endlose Katastrophe (Fukushima - The Endless Disaster) “WELTjournal”, 2021/03/10, TV ORF2 Atom Gypsies. Arbeiter in japanischen Atomkraftwerken (Workers in Japanese Atomic Power Plants) 2018/08/27, German Public Radio SWR2 など
著作：『日本——変化する島国』（2019年）、『日本レポート』（2011年）など

進行：伊藤 実歩子 文学部 教授／ボランティアセンター 副センター長
通訳：サラ・シュターク (Sarah Stark)

対象

立教生、教職員、校友、研究者、一般の方など、
どなたでもご参加いただけます！

定員：対面：なし / オンライン：300名

参加申込み 締切：5/29（月）まで

右記の二次元バーコードを読み取り、
Web フォームに必要事項をご入力ください。



問い合わせ先：立教大学ボランティアセンター

E-mail：volunteer@rikkyo.ac.jp / TEL：03-3985-4651



立教大学ボランティアセンターは、
設立20周年を迎えました！
様々な記念イベントの開催を予定しています。
詳細は、ボランティアセンターでお確かめください！

note
立教ボラセンの取組みを
公式noteで発信中！

